2025 北海道大学（前期）英語概評

出題分析		
試験時間　90 分	**配点**　150 点	**大問数**　4 題
分量（昨年比較）〔減少　同程度　増加〕		**難易度変化**（昨年比較）〔易化　同程度　難化〕

（〔 〕内は「分量：同程度」「難易度変化：難化」に囲み。）

【概評】
形式は例年通り（1, 2論説文読解問題・3英作文問題・4会話文要約完成問題）で変化なし。2の小問数が６個から７個に増加し、全体の総語数は３０００語弱となり、前年度試験に比べて４００程度増加した。1, 2の客観問題は非常に選びやすかった印象で、本文を詳細に読解しなくても予備知識や問題の雰囲気から解けてしまう問題も散見された。3は「インバウンド観光の功罪」という自由英作文の典型的なテーマであり、受験生にとって書きやすかったと考えられる。一方、4は例年に比べ会話文が長く、要約文のみでは答えを導きにくい問題も見られたため、難化したと考えられる。全体的な難易度としては若干の難化と判断されるだろう。

設問別講評

問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	Universal Basic Income（最低所得保障）導入の是非【728 語】	問1　Universal Basic Income の説明として不適切なものを選択する問題。 （A）第１段落第３文の内容に一致、（B）第２段落第１文の内容に一致 （C）第２段落第３文の内容に一致、（D）記述なし	やや易
		問2　指示代名詞 this の内容として最も適切なものを選択する問題。第３段落第１文と第２文では AI によって失われるリスクのある職業について言及されている。	標準
		問3　下線部和訳問題。先頭の with がいわゆる付帯状況の with であり、the income gap と reaching levels not seen since before the Great Depression の間に主語述語関係が存在する。 not seen since before the Great Depression が levels を後置修飾している構造を見落とさないこと。主文は presents を述語動詞とする SVO 構造になっている。	やや難
		問4　doubts の内容説明として当てはまらないものを選択する問題。 （A）第５段落第２文と第３文の内容に一致、（B）第５段落第４文の内容に一致、 （C）記述なし、（D）第５段落第５文の内容に一致	やや易
		問5　下線部の研究結果として被験者に起きた変化を７５字以内で説明する問題。下線部直後にある A lead to B（A は B につながる）が因果関係を示す表現であることを知っていれば、people reporting ~ part-time work までがアンサー範囲であることに気が付けるはず。アンサー範囲内にある A as well as B には「B と同様に A も」という意味と「A と同様に B も、A と B」という意味があるが、本問では重心が B にあることから後者で訳すことが望ましいと考えられる。北大の下線部和訳問題では as well as は頻出表現となっている。	標準
		問6　本文の内容と一致するものを選択する問題。 （A）第３段落第５文の内容に一致、（B）記述なし、（C）第６段落の内容に一致、 （D）記述なし、（E）記述なし、（F）記述なし	標準
2	祖父母の存在が自分にもたらした多大な影響【706 語】	問1　第２段落から第４段落で下線部の内容と一致しないものを選択する問題。 （A）第２段落第２文の内容に一致、（B）記述なし、（C）第２段落第６文の内容に一致 （D）第３段落第１文～第５文の内容に一致、（E）記述なし、（F）第６段落の内容に一致	やや易
		問2　筆者が祖父母を my rock と表現する理由を彼らの具体的行動に触れつつ説明する問題。この my rock は「私にとっての頼れる存在」といった比喩的な意味で用いられており、dependable（信頼できる、頼りになる）とほぼ同義と考えてよいだろう。下線部の直後に when things got difficult at school（学校で問題が生じたときに）とあることから、その際に祖父母が筆者にどのように手を差し伸べたのかが記述されている部分をアンサー範囲とする。	やや難
		問3　空欄に入る最も適切な語の組み合わせを選択する問題。下線部(1)の their unconditional love, (their) resilience, (their) civic-mindedness の具体的な説明がそれぞれ第２段落、第３段落、第４段落に記述されていることに気づくことができれば容易な問題である。ただし、正答するためには love≒affection という語彙力が求められる。	標準
		問4　下線部(3)の one of their children が筆者から見た間柄として最もふさわしいものを選択する問題。their が my grandparents を指していることが明確であるため、論理的には両親のどちらか、あるいは叔父もしくは叔母を指すことになる。しかし、parent や aunt という選択肢が存在しないため、答えは必然的に uncle に決定される。	やや易
		問5　下線部(4)の例として本文の内容と一致するものを選択する問題。 （A）記述なし、（B）第４段落第３文の内容に一致、（C）第４段落第４文の内容に一致、 （D）記述なし、（E）記述なし、（F）記述なし	やや易
		問6　下線部和訳問題。構文的に複雑な部分な特にないが、having elderly family members at home は直訳しにくいので工夫を要する。contend は北大入試で時折見かける動詞であり、本問では contend with ~（～に対処する、～に向き合う）として用いられている。contend that SV（SV ということを強く主張する）も押さえておきたい。 the が physical changes の直前にあることから、(that) they go through の先行詞は physical changes and health concerns の両者であることに留意す	標準

設問別講評

		る。go through は experience や undergo とほぼ同義である。 問7　最終段落で筆者が伝えたい内容として適切なものを選択する問題。 （A）記述なし、（B）記述なし、（C）最終段落最終文の内容に一致、 （D）記述なし、（E）最終段落最終文の内容に一致、（F）記述なし	標準
3	インバウンド（訪日）観光の功罪【451語】	Question A 最初の空欄のアンサー範囲は第２段落第１文。plays an important role in を前置詞 to につながる形で書き換える。正答としては contributes や is essential/key/vital などが考えられる。 ２つ目の空欄のアンサー範囲は第２段落最終文。expect は後続要素として that SV, O to V, to V, A of[from] B など様々な表現を従えるが、最も簡潔な答えを求めるならば to V が最良の選択となる。正答としては to achieve や to reach などが考えられる。 Question B 最初の空欄のアンサー範囲は第３段落第２文。the growth of visitors を換言する。このフレーズをそのまま空欄に入れても文意は成立するが、コピーになってしまうため不可。「訪問客の（急激な）増加」という意味の別の表現に置き換える。正答としては an increasing number of visitors や an influx of tourists などが考えられる。 ２つ目の空欄のアンサー範囲は第３段落第５文。the entrance of tourists into を換言する。最初の空欄と同様に、このフレーズをそのまま空欄に入れても文意は成立するが、コピーになってしまうため不可。「～への観光客の入場（者数）」という意味の別の表現に置き換える。正答としては the number of tourists entering や tourist access to などが考えられる。 Question C 自由英作文問題。日本政府がインバウンド観光を推進することに賛成または反対の立場で論じる。語数は７０語から１００語と例年通り。本年度は a 70－100 word paragraph という表現が消えたため、一段落構成にする必要はない。「インバウンド観光の功罪」は自由英作文でよく扱われるテーマの一つであり、本文中にも賛成・反対双方の理由が記述されているため、書きづらさを感じることはなかっただろう。例年に比べれば取り組みやすかったと言える。	標準 標準 標準
4	テクノロジー音痴を指摘され落ち込むアメリカ人教授とその同僚の日本人教授の会話【761語＋319語】	例年通りの会話文要約を完成させる問題。それぞれのアンサー範囲となる発言は以下の通り。 （1）AP の１回目の発言、（2）AP の３回目の発言、（3）AP の４回目の発言、（4）AP の４回目の発言 （5）AP の４回目の発言、（6）JP の４回目の発言、（7）JP の４回目の発言、（8）AP の５回目の発言、 （9）JP の５回目の発言、（10）AP の７回目の発言、（11）JP の８回目の発言、（12）JP の９回目の発言 本年度の問題は、言い換えの程度が大きいものも含まれており、要約文のみでは答えを導きにくい問題も見られたため、受験生の多くが難しく感じたと推察される。	やや難

合格のための学習法

北海道大学の英語入試では、奇をてらった問題は出題されず、オーソドックスな設問が並ぶ。そのため、他の旧帝大と比べても難易度は決して高くない。だからこそ、基礎となる英語力を盤石にすることが何より重要である。

読解問題に関しては、英検２級程度の語彙力があれば十分に対応できる。日々の学習では、やや易しめから標準レベルの教材（特に過去問がおすすめ）を活用し、単語・文法・構文・論理に注意を払いながら継続的に取り組むことが大切だ。

読解問題の難易度がそれほど高くない分、多くの受験生が敬遠しがちな英作文が合否を左右する可能性が高い。英作文を苦手とする学生も、頻出表現の暗記や平易な和文英訳から着実に取り組み、アウトプットの練習を学習に取り入れることが求められる。

第４問で高得点を獲得するには、文法・語彙・語法・コロケーションの知識が不可欠である。また、会話文中の表現がそのまま要約文の選択肢として示されることはほとんどないため、会話文を細部まで丁寧に読む必要はない。むしろ、要約文を通じてどれだけの情報を的確に把握できるかが鍵となる。会話文は参考資料程度に考え、要約文の精読を優先するのが望ましい。

代々木ゼミナール